秋高同窓会だより

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会

印刷所
秋田マイクロ写真
印刷株式会社

59年度三総会終える

予算・決算など承認

会長職は合議制
金子副会長を代表格に

昭和五十九年度、秋田高校同窓会の理事会並びに総会は、八日二十六日(日)、秋田市の「あきたくらぶ」で会員九十九名が参集して開催。議事案件を原案通り決定後、懇親会場を大広間に移して直ちに懇親会を開催、盛会裡に閉会した。

理事会・総会

理事会・総会は合同で開催することになって、会員九十九名出席して午後四時開会。内藤庸男会長病気欠席のため、金子副会長が開会のあいさつを行ったのち、秋山学校長から「今春の卒業生の進学状況、運動部、文化部各部の活動状況、特に本年度本県開催となった高校総体に秋高が中心となって、運営、競技両面にわたって活躍したなど学校の近況について報告があった。

次いで諸報告に入り、伊藤事務局長から、昨年の総会いらい今回の総会までの一年間に行われた県内、県外各支部の総会開催と事務報告があってこれを了承、議事に移った。

議長には金子副会長を指名して議事に入り、(1)五十八年度会計決算と同監査報告、(2)五十九年度事業計画及び予算案(別項)をいずれも満場一致で承認。

次いで、病気療養中の内藤会長から「長期にわたる病気療養のため、会長を辞任したい」との申し入れがあったことが報告されて、今後の対策について協議が行われた結果、「任期がなお一年残されているので、辞任願は副会長預りとして、回復に専念して貰いたい。なお会長職務は、最年長の金子氏を代表格として、副会長の合議運営でいくこととしたい」ということに落ちつき、これを満場一致で承認、閉会した。

〈五十八年度決算〉

収入済額二、九九三、九九九円
支出済額二、六八五、九三四円
残　額　三〇八、〇六五円
○同窓会基金累計
一、六三七、六六四円
(定期預金へ)

〈五十九年度事業計画〉

(イ)六十年度入会式の開催
(ロ)同窓会だよりの発行
(だより編集を、過去の学校職員依存から脱却して、同窓会員重点に改組し、会員相互の連絡親睦の役割を担うこととする)
(ハ)支部並びに年次との連けい強化策
(提案に基づいて、機関を新設して検討に入り、具体案ができしだい協議を開始する)

〈五十九年度予算案〉

収　入　三、五五〇、六三五円
支　出　三、五五〇、六三五円
前年比　六、一二、四五二円の増

懇親会

総会終了後、直ちに懇親会を大広間に移行。まず全員そろって記念写真を撮影後、会場一杯に並べられた丸テーブル形式の宴席に着席。

欠席の内藤会長に代わって、金子副会長が開式のあいさつを行ったのち、佐々木義武衆議院議員(昭2卒)がお祝いのことばを述べたあと、長年母校事務局職員として勤務のかたわら、同窓会員でもあったため、同窓会関係事務を担当していたが、今春の定期異動で男鹿工業高校事務職員に転出した根布谷豪氏に対して記念品を贈って感謝の意を表した。次いで出口広光参議院議員(昭18卒)の乾杯で宴を開始、各テーブル毎に歓談の花を咲かせたあと、校歌を高らかに歌い、母校並びに同窓会の発展を祈って万歳三唱で閉会した。

内藤庸男会長ご死去

内藤庸男同窓会長(七)は、九月二十七日午前十時、急性しん不全のため秋田市の自宅で死去された。

同会長は大正十三年母校卒業の第三十七期生。昭和五年東大法学部卒業と同時に司法界に入り、約二十年間にわたり各地の裁判所の判事を務めた。

その後退官して郷里に帰り、二十九年から弁護士を開業、これまで秋田弁護士会会長、日弁連理事を歴任。さらに四十九年から五十三年まで秋田市公平委員長、五十三年から四年間は県選挙管理委員長を務めるなど幅広く活躍した。

当同窓会では、百十周年実行委の総務委員として小玉孝次郎前会長を助け、記念式や事業の成功に大きく貢献した。

昨年九月の総会で小玉氏からバトンを受け継いだ内藤会長は、今春の入会式で〝汝なんの為にそこにありや〟の西哲の言葉に触れ「校歌の〝わが生、わが世の天職いかに〟と同じ問いかけであり、校歌の精神に帰って常に自己を厳しく凝視し、マンネリ化を打破し、創造的に生きよ」と述べ、深い感銘を与えた。

十月四日午前十一時から平安閣で行われた葬儀には、司法界はもちろん、県内の政財界、母校関係者らが多数出席、会長の生前の人柄をしのんだ。

(2面に追悼記事)

心からご冥福を祈る
金子副会長の話

内藤会長には、昨年九月の総会で会員の強い推挙により就任して約一年、このたびのご逝去には、ただ驚くばかりで、心からご冥福をお祈りしたい。

今思えばあの時あくまで固辞されたのも、あるいは内心、体調に自信がなかったのではないかと、今にして悔まれる。

しかし、就任後は学校当局と連係し、母校にとって必要なことであれば、事の大小となく力を貸して奉仕したいと、校舎改築期成同盟会の会長も気持ちよく引き受けられた。幸いにして校舎改築のメドもたち、また会の活性化のため組織検討委員会が設置されたことは、会長も喜ばれていることと思う。今後の会の運営については、来年の総会まで会長欠員とし、副会長の合議により運営していくことにしたので、ご協力をお願いしたい。

募金体制には反省も
百十周年実行委事業終了で解散会

百十周年記念事業実行委員会の反省会兼解散式が、小玉孝次郎実行委員長名(前同窓会長)で招集され、実行委員、学校側計五十名が参集して、九月二十六日、午後五時半から秋田市栄太楼会議室で行われた。

これは百十周年を記念し、屋内トレーニング場の建設をはじめとして各種の記念事業が遂行されたほか、記念式典並びに祝賀会が盛大に行われ、スポーツ面では念願の甲子園出場を果たして、とどこおりなく百十周年を終了したものの、一部で募金体制の在り方には反省点も指摘されていた。このため事業を総合的に見直し、今後の百二十周年及び同窓会の組織強化に備えるために開催されたもので、まず秋山学校長から感謝のことばがあってから、事業委各専門部会長、総務(大島)、財政(小国)、行事(杉渕)、施設(桜谷)、校史(道田)、広報(沢石)の各氏から結果報告、問題点、反省点の提起が行われ、これらに関連して、長野佳司委員(昭29)から、組織強化私案が提案されて、今後の課題として検討することとした。

反省会終了後これまで同窓会事務をほとんど担当していた秋高事務局職員、根布谷豪氏(同窓会員)の男鹿工高転出に伴ない、手薄となった同窓会事務担当者として、七月から桜谷吾朗氏(昭12卒)を迎えることとなった旨、秋山学校長(兼副会長)から経過説明と同氏の紹介があった。

最後に次のような百十周年記念募金の決算報告が行われ、これを承認した。

〈百十周年記念事業募金決算報告〉

収　入　八三、八五三、九六七円
支　出　七八、八五三、九六七円
残　額　五、〇〇〇、〇〇〇円
(百十周年記念事業資金残額として定期預金へ)

会務報告

▼理事会・総会58・9・4、あきたくらぶ)▼能代・山本支部総会(10・4、宮茂登)▼井川支部総会(10・29・石川)▼本荘支部総会(11・25、グランドホテル)▼湯沢支部総会(12・2、石川)▼同窓会だより特集号発行(12・25)▼秋田市役所「羽城会」総会(59・1・10、ニューグランドホテル)▼幹事・常任理事会(2・1、同)▼59年度入会式(3・7、秋田高校)▼東肥羽城会総会(3・16、市農協会館)▼八郎潟支部総会(4・1、しらほ食堂)▼同窓会だより編集委員会(6・13、鎌田会館)▼東京支部総会(6・22、東部百貨店バンケットホール)▼大曲支部総会(6・23、対川閣)▼若菜会総会(6・23、杉のや)▼鹿角・花輪支部総会(7・7、百助)▼幹事・常任理事会(7・17、秋高会議室)▼同窓会だより18号発行(7・25)▼副会長会議(8・21、秋高)。

秋高同窓会予算・決算

昭和58年度 決算書		昭和59年度 予算書
〈収入の部〉		〈収入の部〉
入会金	1,662,500	1,647,570
役員会費	1,095,000	1,575,000
雑収入	28,252	20,000
繰越金	208,247	308,065
合計	2,993,999	3,550,635
〈支出の部〉		〈支出の部〉
事務費	530,000	640,000
会議費	803,084	1,060,000
事業費	1,278,650	1,500,000
基金	30,000	30,000
諸費	44,200	150,000
予備費	0	170,635
合計	2,685,934	3,550,635
繰越額	308,065	

天上天下

一日も休むことなく、母校は年輪を重ねている。百周年は世紀の節目であったから、何をするにしても異論はなかったし、盛り上がりがあった▼ほっとしたのも束の間、百十周年がやってきた。百周年疲れもあってか盛り上がりには二カ年をついやした。しかし母校愛は減びず。なんだかんだの野次馬がらみの声もあったが、やはりまとまるところにまとまって、見事に終わった▼さてこんどは百二十周年。前回同様、あっという間にやってくるに違いない。そんなこんなを考えて、たまりかねて出てきたのが、一理事会員からの組織強化対策であろう。出るべきものが、出るべき時に出てきた感じである▼ところで組織とはいったい何であるのか。どうすれば、生き生きとした「生き体」となるのか。どう転べば「死に体」となるのか▼たとえば、政党の政治組織と、親睦を目的とする同窓会組織とは、根本的にその在り方を異にする。政治組織は利益を追求する権力集団であり、タテ割で組織を運用する。利益目的が明確で、パワーが強大であればあるほど、組織は強力に機能する。自民党の派閥が、中央組織から地方組織にまで強化してきたのはこのためである▼同窓会という組織は、どうすれば機能するのか。結論を言えば、目的は親睦にあるのだから、この目的が達成されるような機能化を図ればよいということに尽きる。しかし結論が単純明確であるということは、反面、それに至る手段、方法はかえって難しく、数々の難問を解決しなければ、結論に到達することは難しいということでもある▼強化のための「タタキ台」は出されているが、どれをとっても、言うは易く、行うは難しの感を深くする。しかし旧秋中、秋高の一世紀余にわたる「学恩と友愛」のきずなは深いものがある。このふたつがそのカギである。

会務報告

▼理事会・総会58・9・4、あきたくらぶ)▼能代・山本支部総会(10・4、宮茂登)▼井川支部総会(10・29・石川)▼本荘支部総会(11・25、グランドホテル)▼湯沢支部総会(12・2、石川)▼同窓会だより特集号発行(12・25)▼秋田市役所「羽城会」総会(59・1・10、ニューグランドホテル)▼幹事・常任理事会(2・1、同)▼59年度入会式(3・7、秋田高校)▼東肥羽城会総会(3・16、市農協会館)▼八郎潟支部総会(4・1、しらほ食堂)▼同窓会だより編集委員会(6・13、鎌田会館)▼東京支部総会(6・22、東部百貨店バンケットホール)▼大曲支部総会(6・23、対川閣)▼若菜会総会(6・23、杉のや)▼鹿角・花輪支部総会(7・7、百助)▼幹事・常任理事会(7・17、秋高会議室)▼同窓会だより18号発行(7・25)▼副会長会議(8・21、秋高)。

親友 内藤庸男君を偲んで

私達が秋田中学に入学したのは大正八年でした。校舎は西根小屋町(もとの日赤の跡)にあって当時としてはモダンな白亜の建物で、三クラス百六十二名でした。内藤君は人柄のよい勉強もよくできる人で、いつも壁頭(かべあたま)でした。その頃はなんでも成績を重視する時代で、教室の座席までも成績順で、壁側から順次坐るのでできる者は壁の前でした。これを壁頭と言ったのです。毎年三月末には各学年とも玄関の前に成績が発表されました。氏名の途中に一本赤い線が引かれ以下落第(留年)と堂々と発表したものです。多い年は二十人もおったようでした。私達の一年前に卒業した人で、中学五年を九年かかった人がいました。私達の学年も上から落ちて来る人を入れて卒業したのは百人足らずでした。

内藤君は、秋中から山形高校(旧制)に入学し、更に東大法学部に進まれました。今でもそうでしょうが、東大の法学部といえば天下の秀才の集まる所、官僚へのエリートコースでした。私達のクラスから東大法学部に入ったのは四人だけでした。しかも内藤君は在学中に難関中の難関である高文試験司法科に合格したのです。昭和五年東大を卒業し、裁判官として仙台・山形の地裁に勤務された後、昭和十三年満州国司法部に出向、五ケ年勤務され帰国、新潟・東京の地裁に勤務されましたが、不幸にも病魔におかされ、昭和二十六年退官しました。三年間専心治療されて全快、郷里秋田で弁護士を開業されました。弁護士になって三十年間、本業は言うまでもなく、県や市の各種委員を勤め、社会のため大変貢献されました。

私達同級会の幹事として大野博通君(故人)と共に小畑勇二郎君(前知事故人)を中心として毎年一泊旅行や宴席を世話してくれました。クラスの中心のこの三人も今は亡く、戦死や病死で今生き残っている同級生は僅か三十名足らずになりました。全く淋しい限りであります。

しかし彼はお子さんに恵まれ、みんな立派に成長され、長男の方は弁護士として父のあとを引きついで活躍しております。ご冥福を心からお祈りします。

(宮田正彦　大13卒)

恩師を囲んで一期生卒業30年を祝った女子同窓生

一期生卒業30年に記念集会

若菜会　華やかに

第九回女子同窓生親睦の集い(若菜会)は九月二十二日秋田ニューグランドホテルに約四十人が参加して開かれた。

今年は一期生の卒業三十年にあたり、一期の二十九年卒が当番。三十八年卒の五十嵐和子さんら後輩にも手伝って戴き、母校の秋山校長先生ほか深井博之、大島俊平、加藤仁美、山谷浩二の恩師四人を囲んでなごやかな会だった。

司会の井上房子さんは、秋田市美術館長として活躍中。また、若い会員も多く、ことに五十二年卒の渡部ますみさんの参加もあり、共学一期の年齢四十八～四十九歳の者としては(五十歳になるところとはいいたくない微妙さ)感慨深いものがあった。

華やかなシャンデリアの下、きれいな秋の夕日を見ながら恩師と語らい、自己紹介やらカラオケなど充実した楽しい一刻を過した。

この会は五十一年から毎年開かれてきたが、一期生卒業三十年を迎えた機会に一年置きの開催とした。

紅顔時代に戻る

「昭五会」50年ぶり〝復活者〟も

昭和五年卒業生の集まりである「昭五会」の五十九年度会合は、九月十三日(木)午後五時半から、秋田市千秋会館で開催した。

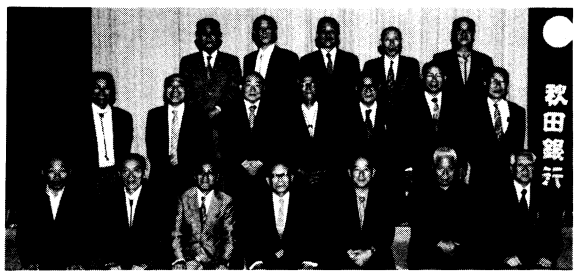
安倍興君の開会のあいさつ、物故者への黙祷、本間善次郎君の経過報告、笹山秀武君の会計監査報告などあって、懇親会に移った。

どうした手違いか、同窓会名簿には物故者と記載されていて五十年ぶりにこのたび〝復活〟した堀井太郎君の乾杯の音頭で始まった。酒がはいるにつれ、談論風発、紅顔の少年時代にかえって楽しいひとときを過し、来年も健康で参加することのできるよう願って散会。

出席者十九名は左記のとおり

安倍　興、相澤謙一、伊藤　彰、伊藤武雄、石川　正、越後谷巌、大島秀太郎、岡　正吉、加藤久三郎、加藤景一、金沢英治、桜田正吉、桜田亮直、笹山秀武、鈴木光義、藤本儀一、堀井太郎、本間善次郎、松葉重敏。

(相澤謙一　記)



こちらは仙台支部

仙台支部総会は、十月十三日午後二時から仙台シティホテル「伊達の間」で同窓会本部から京野大三副会長、事務担当の桜谷吾朗氏を迎えて行われた(写真)。

創立一一〇周年記念の名簿により新しく消息が判明した会員を含めて五百人に案内したが、出席者は約七十人。すでに離仙した会員も多かった割には最近にない盛り上がり。

菅原晃一支部長(昭13卒)から①同窓会は親睦と母校を応援する団体であり、伝統のしからしめる母校愛は、先輩、後輩の触れ合いにより引き継がれる。②創立一一〇周年を迎え、母校が第二世紀の新しい歴史と伝統の創造のため行った各種記念事業、行事が見事に終了したことは意義深い。③母校と同窓会の今後の発展と触れ合いの機会を続けたい……などと挨拶があった。

続いて京野、桜谷の両氏からは一一〇周年記念行事を中心とする母校の近況、スポーツ活動状況などについて詳細な報告があった。

懇親会は田中善太郎氏(大12卒)の乾杯の音頭で始まり、おひらきには全員で校歌と応援副歌を斉唱、戸沢慶一氏(昭16卒)の発声で万歳を三唱、二時間を越える触れ合いの締めくくりとした。

新役員は次のとおり。

▼支部長＝菅原晃一(昭13)▼幹事長＝藤原敬司(昭16)▼幹事＝船木亨一(昭31)神谷謹一(昭37)池田信也(昭37)小野秀人(昭52)。

▲二時間越えた触れ合いの場

首都圏卯申会(昭七卒)

木枯し肌に泌む十一月二十八日

次回の六十一年は、三十三年卒の当番となるが、どんな趣向になるか期待が大きい。親睦の会であるからできるだけ多くの方々が参加するよう望んでいる。また、年次ごとの連絡員を次のとおり選出した。

▼S29＝土田敦子、◎秋山まり子▼S30＝山寺慎子○伊藤恵子▼S31＝成田涼子、平塚史枝▼S32＝中川納絵、柴田協子▼S33＝石黒敦子、高島清子▼S34＝高橋貞子▼S35＝吉田明子▼S36＝川口百合子▼S37＝三浦敦子▼S38＝五十嵐和子▼S39＝速水洋子▼S40＝福田二代▼S41＝石川紀代子▼S42＝清沢三代▼S43＝藤盛節子、佐藤真理子▼S44＝小貫弓子、木村三紀子▼S45＝菊地えり子▼S46＝本間真紀子▼S52＝辻久美子、渡部ますみ▼S54＝辻留美子。

(○印最終連絡先)

なお、連絡係が未決定の年次もあるのでよろしく。

(S29、秋山　記)

一日、新橋駅近くの寿司屋の奥二階で、一年半振りに首都圏卯申会のご面々(十六名)が一堂に会し、盃を交わして初冬の夕べを楽しくすごした。

白髪、光頭、互に古稀に達しはしたものの、半世紀前の紅顔美少年当時の面影はそれなりに残し、秋中時代の思い出が油然として、互の脳裡を馳け巡るものとみえて、自と話がはずむ。

昔日の出来事などについて、童心に立ち返って談論風発する様は、いつみても清楚にしてすがすがしく、特に今回の集いには、思いもよらぬ「花岡泰順君」の出席をえて、卯申会は一段と盛り上りをみせたし、もっぱら日本海中心に気炎万丈、老いたりとはいえ流石社中健児の面目躍如たるものがあった。

だが、お互の年を考え乍ら自愛の上、次回の卯申会を楽しみに、花岡君の音頭で母校の校歌を讃歌して別れた。

『残念なことに、はるばる榛名山を下りて出席を予定していた皆川一郎君、厚木から馳せ参ずることになっていた片展七郎君船橋市よりの堀松和夫君等三名が余儀なき事情のため欠席となった。』(文筆　児玉周之助)

〈出席者氏名〉

伊藤勇一、浦川直樹、兼松信義、樫尾報三、菊地文雄、佐々木正、児玉周之助、東海林篤、辻豊治、戸田百年、船木茂、三浦道也、村中弓三郎、村上則孝、花岡泰順、目黒虎雄(以上十六名)

Fashion Gallery MASUYA 升屋 秋田・大町

東北製綱株式会社
代表取締役専務
畠山為敏 (S12卒)
秋田市泉字下の町21－5
TEL0188(23)7868

鹿角市長
阿部新 (S12卒)
鹿角市花輪字上花輪二〇五
電話(〇六六二)三－二五六七

同窓会だより編集委員長
沢石　謙 (S12卒)
同窓会事務局
櫻谷吾朗 (S12卒)

本醸造 太平山
小玉健吉 (S12卒)

株式会社 アキタニューグランドホテル
秋田市中通五丁目2番1号
代表取締役社長 伊藤博次 (S12卒)
代表取締役副社長 伊藤民雄 (S35卒)
常務取締役 阿部武次 (S6卒)
取締役総務部長 佐藤忠明 (S33卒)
取締役販売促進部長 山田宗一 (S16卒)
営業部長 伊藤信雄 (S43卒)
営業部次長 森川良治 (S30卒)
宿泊部主任 長谷川隆一 (S41卒)

総合エンジニアリングの
日本海建設株式会社
取締役会長
京野大三 (S12卒)
本社／秋田市新屋町字砂奴寄1－42
☎0188－63－0251

小澤歯科医院
小澤雄象 (S12卒)
小澤文義 (S42卒)
小澤友義 (S44卒)
診療所　秋田市中通一丁目4－57
TEL32－5278、33－1588、1589
自宅　秋田市中通六丁目1－34
TEL 32－9669

小林内科小児科医院
小林昌樹 (S12卒)
能代市中和一丁目文化会館前
TEL(0185)52－4616
いわき市立総合磐城共立病院
内科糖尿病科長
小林　節 (S42卒)

つどい

各地の触れ合い盛り上がる

昭13卒 仙台で合同

20人で初の三元同期会

昭和十三年卒同期会は毎年県内と東京で開催しているが、東北新幹線が開通したのを機会に秋田と東京の中間である仙台で同期会を開いた。

出席者は関東十人、秋田、仙台それぞれ五人と総勢二十人。なかには卒業以来四十五年ぶりという人もいて、最初は名前と顔が一致せずに迷ったりしたが、談笑しているうちにすっかり固さもほごれてきた。

たまたま話が一年から三年まで過ごした東根小屋町の校舎や四年から卒業まで入った手形の校舎に移ると目を光らせて悪童ぶりを披露する人もいた。また、恩師を手こずらせたことを英雄気取りで話す人も出て時の経つのを忘れるほどだった。

物故者に心から哀悼の意を表し、最後は腕を組み、肩を取りあって校歌や校友会歌を斉唱、今後も定期的に開催することを約し、おひらきにした。

出席者は次のとおり。

稲見春夫、及川(及位)満夫、熊谷九郎、佐藤久、佐藤全男、斎藤淑夫、進藤忠男、菅原菊男、平沢哲夫、早川太郎(以上関東)菅原晃一、小松誠、奥山(高橋)熊雄、佐藤均、武田克巳(以上仙台)大槻家静、高安(杉山)泰助、進藤一雄、宮崎金一、菅原繁雄(以上秋田)ほかに藤原敬司氏(昭15卒)が特別参加。

(菅原繁雄　記)

初めて仙台で開かれた昭13卒の三元同期会

恩師から思い出話

昭7卒「卯申会」県大会

昭和七年卒で組織している、「卯申会」県内大会は十月十六日午後三時から恩師山下四郎、小島好治両先生を迎えて秋田市農協会館で開かれた。

旅行や病気で会員の出席は十三人と少なく両先生には申し訳なかったが、先生たちから旧制秋田中学奉職の際の思い出話が出され小数ながら楽しいひとときを過ごした。

当会の代表幹事、大嶋俊平君が体調悪いとかでリタイヤされ、小生にお鉢が回ってきた。小生浅学の身で何もできないが、永年のトレーニングで酒の方は飲み方を知っているつもり。

「白玉の歯に泌みとおる秋の夜の酒は静かにのむべかりけり」

……牧　水……

出席者は次のとおり。

石井彪、鈴木稔、杉渕一雄、小野地忠治、穴沢信義、大嶋俊平、小山田宣雄、川原田良治、川原田弘、市橋武、渡部正一、細部弘、桐沢春雄。

(相沢　記)

秋田でも負けじと19人

昭13卒の五十九年度定例同期会(毎年十月第三土曜日開催)は十月二十日秋田市千秋会館で開催。出席者こそ十九名と少なかったが、久し振りに東京から高橋正夫君がベレー帽のダンディースタイルで颯爽と登場。仙台からは同窓会仙台支部長として母校発展のために頑張っている菅原晃一君が馳せ参じた。さらに長期療養中であった赤間正一君が元気な顔を見せるなど、正に朋あり遠方より来るまた楽しからずやの雰囲気に満ちた、近来にない充実した集いであった。

開会に先立ち別室の写真室で記念撮影をすましたあと、、槻幹事の司会進行で、まず卒業以来の物故者八十三名の霊に黙祷を捧げ、石田秀一代表幹事から母校創立百十周年記念事業募金、在京秋中同期会、仙台同期会の状況を中心にした開会のあいさつがあり、会務報告に引き続いて菅原晃一君の音頭で乾杯し開宴となった。

はじめ欠席者の短信文を読んだり静かにスタートした懇親会も、杯を重ねるごとに二つ三つと車座ができた。在学当時のなつかしい話、軍隊生活の思い出話や級友の消息を確かめ合ったりしていたが、若いコンパニオンのお酌で酒宴も盛り上がり、今年はじめて用意したカラオケの伴奏に乗って、なつかしの歌が次々と飛び出すなど最高潮、大正生まれの意気けんこうたるものがあった。

開宴から二時間半、全員が起立して校歌、校友会歌を合唱、最後に往年の名ラガー泉富士男君のリードで一同応援歌を熱唱し、名残りつきない中に、お互いの健康を祈りつつ、来年の再会を約して閉会、三々五々夜の街へ散った。

(出席者待望の記念写真は、写真店のミスでおしゃかとなりとうとう掲載することができなかった)。

出席者名次のとおり。

石田秀一、工藤千代松、鈴木哲郎、河村周吉、若狭金治、安東誠、江見喜代彦、高安泰助、小松真悦、畑澤恵、高橋正夫、赤間正一、菅原晃一、進藤一雄、山田芳武、泉富士男、平野庫治、大槻家静、小松義一。

(大槻　記)

営林局は現職、OBで……

秋田営林局関係者で、新しく「営林局署秋高OB会」が結成された。

営林局同窓会はかつて会員は百人を超えていたが、最近新入職員もほとんどなく、会員も六十人と減少の一途をたどっている。

そこで今回、当同窓会OBが一堂に集まって親睦を深め、熱年を充実させるばかりではなく、国有林野事業や母校の発展に寄与するという目的で新組織の発足となったもの。

総会は九月二十二日、秋田市山王の全逓会館で四十数人の会員が出席して開かれ、現職・OBそれぞれ議案の審議と役員の改選したあと合同で懇親会に移った。

懇親会には来賓として樋口正義秋田営林局総務部長、同窓会本部から京野大三副会長と事務担当の桜谷吾朗氏を招き、先輩も後輩も和気あいあい。夜の更けるのを忘れるほど痛飲、談笑し、最後に校歌を高らかに斉唱して散会した。

【現職役員】▼会長＝笹木清美(S二十九年卒)▼副会長＝有明孝一郎(S二十六年卒)児玉実(S三十年卒)▼事務局長＝高田屋栄一(S二十八年卒)

【OB会役員】▼会長＝宇尾正(S十三年卒)▼事務局長＝高山実(S十八年卒)

▶現職員、OB合同の同窓会

能代・山本は

13人で校歌熱唱

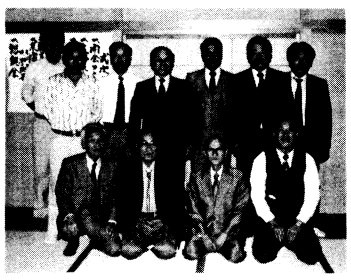
能代・山本支部総会(写真)は十月十三日午後六時から能代市西通町「宮茂登」で本部から大島副会長、榊田教頭先生を迎えて開催した。

田中勝三氏(S三十三年卒)の司会でまず新会長の三浦亀雄氏(T十四年卒)のあいさつのあと、大島本部副会長のあいさつ、榊田先生から母校の現状報告が行われた。続いて平川民治氏(T十五年)の音頭で乾杯し懇親会に移った。

この夜の参加者は会員十三人。数こそ少なかったが、会は終始なごやかな雰囲気で進められ、先輩、後輩の区別なく語り合った。ことに夜が更けてアルコールが適度に回ったころには全員で校歌や校友会歌を熱唱、最高の盛り上がりをみせて散会した。

出席者は次のとおり。

三浦亀雄、平川民治、斎藤一雄、高橋佐七郎、池見透、高橋祐之助、工藤英夫、笠井利通、塩谷惇、田中勝三、工藤忠弘、今井敦雄、池内俊之。



▲なごやかな雰囲気で進められた能代・山本地区総会

年齢のカベ越えて

本荘、40人がなごやかに

本荘支部総会は恒例により勤労感謝の日の前日にあたる十一月二十二日午後六時から本荘グランドホテルで本部から京野副会長、同窓会事務を担当することになった桜谷吾朗氏を迎えて開かれた。

堀稔本荘支部会長(昭十年卒)のあいさつのあと、同窓会本部の京野副会長から「会の現況と今後の運営方針。桜谷氏から「生徒の活動や校舎改築」など母校の近況について説明があった。

続いて出席者の最年長である早川祐三氏(昭二年卒)の乾杯の音頭で懇親会に移った。

この夜の参加者は昭和二年卒から昭和五十二年卒までの四十人。年齢は五十年のひだたりはあったが、会は終始なごやかな雰囲気のなかで進められ、最行は全員で校歌を斉唱して散会した。

日本交通公社 秋田支店　秋田市大町三丁目2　TEL 62－6976
畠山一郎(S8卒)　湊志郎(S30卒)　佐藤洋志(S36卒)　鈴木基弘(S34卒)　佐藤忠次(S37卒)　菅原春雄(S39卒)　石黒茂(S40卒)　高坂伸夫(S40卒)　高橋喜孝(S41卒)　池田和男(S42卒)　佐藤充(S43卒)　杉山重己(S43卒)

秋田銀行　市内勤務(S27卒)
上村恵一郎　高橋光夫　斉藤隆　若林和夫　山口馨　熊谷金次郎　安彦良太郎

ABS秋田放送(S27卒)
成田実　田中英夫　萩原卓　黒丸幹夫

株式会社 日本交通公社
佐藤智信(S28卒本荘)　小林敏夫(S32卒福島)　平沢光憲(S33卒秋田)　平岡昇(S35ノ卒関一)　菅原梯祐(S35卒東京)　大友邦芳(S38卒日立)　佐藤茂雄(S39卒仙台)　伊藤正治(S40卒仙台)　須藤義男(S40ノ卒関一)　大橋哲夫(S41卒福島)　三浦裕栄(S42卒仙台)　渡辺仁美(S43卒仙台)

株式会社 畠山製粉所　畠山春男(S29卒)　秋田市旭南二丁目2番46号　TEL(62)4858

秋山皮膚科医院　秋山まり子(S29卒)　〒010-16　秋田市新屋元町21－10　☎0188(28)2211

秋田キャッスルホテル写真室　(有)なめかわ写真　滑川啓(S29卒)　秋田市広小路秋田キャッスルホテル内　TEL32－4924

(株)サンデン空港売店　長野佳司(S29卒)　秋田空港ターミナルビル2F　TEL86－4190

組織検討委員会が発足

母校とより強い連係を

同窓会運営の活性化目指す

基本問題を協議

委員長に杉渕氏　3月末まで結論

会員相互の親睦と学校との連係をより密に…と同窓会内に組織検討委員会が発足した。初会合は十一月五日午後一時から学校で開かれ、委員長に杉渕一雄氏(昭七年)、副委員長に沢石謙氏(昭十二年)を選出した。

同委は同窓会の日常の活動の中で組織を整備し、場合によっては問題ごとに組織で処理するほか、同窓会の基本的な運営について検討を加え、総会に諮問するため、さる八月の総会の了解事項に基づいて発足した。

初会合には、金子恭三副会長(大十二年)はじめ各副会長と各委員それに秋山校長、榊田教頭、伊藤事務局長ら学校側委員が出席、金子副会長、秋山校長から趣旨を兼ねたあいさつ、各委員の自己紹介に続き杉渕一雄氏の司会で議事に入った。

まず会の名称を「組織検討委員会」と決め、委員長、副委員長を選んだ。続いて事務局から提案された「検討課題素案」について協議した。しかし、この日は、来年の総会前の常任委員会に各検討事項を諮問するため、三月末を目途に大枠を検討することを決めたにとどまり、具体的な課題については、第二回会合以降で検討することになった。

委員は次のとおり(正副委員長除く)

小国敬二郎(昭9)、茂地茂(昭16)、村上十郎(昭19)、藤田幸雄(昭23)、太田寿男(昭25)、辻良二(昭26)、長野佳司(昭29)、秋山まり子(昭29)、佐藤照(昭31)、工藤雄一(昭33)、五十嵐和子(昭38)、畠山樹之(昭38)、高橋智徳(昭40)、伊藤守(昭20定)

▼学校側＝秋山校長、榊田教頭、伊藤事務長、伊東俊穂(昭26)、大久保正樹(昭42)、桜谷吾朗(昭12)(事務局)

検討課題素案

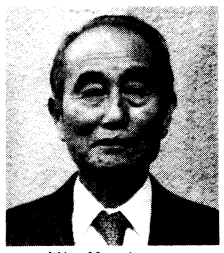
〔会の組織と運営〕①常設委員会の設置②役員構成と会費の徴収③本部と支部・年次との連係④「同窓会だより」の編集と発行⑤資料の整備と運用⑥機器の導入と活用⑦規約の一部改正⑧同窓会館の建設。

〔会と在校生との関連〕①会費・入会式のあり方②古い資料の収集と展示③奨学基金の設立

第一回会合であいさつする秋山校長

事務局に桜谷さん

母校勤務の経験生かす



桜谷さん

今春、男鹿高校に転出した根布谷氏に代り、桜谷吾朗氏が十月から同窓会の事務を担当している。

同氏は昭和十二年旧制秋田中学卒業後、秋田鉱専を経て戦後教職に入った。母校にも二十三年から二十二年間勤務、教科の数学はもちろん、野球部長として活躍、母校チームの甲子園出場にも尽力した。

その後、横手高校校長を最後に退職、秋田市八橋字下八橋89～8の自宅で自適のかたわら昭和12年卒五十期会幹事、百十周年実行委施設委員長を務めていた。

事務局入りにあたり、同氏は「長年秋高に勤務し、同窓会と一体となった活動を続けた経験を生かし、微力ながらご恩返しのつもりで会の発展に努力したい」と語っている。当会事務局は、母校三階の図書室内で桜谷さんの勤務は、毎週月曜と木曜の二回。来校の際は是非立寄ってくださいとのこと。

年次別機能を強化

第2回会合「財政」「支部」も課題に

第二回委員会は十一月十九日午後五時半から、秋田市ビューホテル五階会議室で、十八名出席し、杉渕委員長、沢石副委員長司会の下に開催。

さきの第一回委員会で、タタキ台として出された検討課題、▽会の組織と運営について(八項目)▽会と在校生の交流について(三項目)についてまず検討に入った。また並行して事務局、桜谷委員から会の現状について

「理事構成の年代別内訳は大正年代卒が四三人、昭和二十三年卒まで一八三人、昭和二十四年以降卒二七三人、合計四六三人。郡市別構成は秋田市三八五人、郡市七五人、県外三人、合計四六三人。会費納入率は七二・八%。また地域、企業、団体別の支部組織現況は、県内支部一六、職場・団体支部一九、県外支部四」という現況が報告された。

このような現況をふまえて、メーンテーマである(組織の活性化対策)について具体策や反省点、経験談など、全委員から活発な意見が相次いで出され、タタキ台素案をにらみあわせながら、論議を集約した結果、①年次別機能強化対策、②財政強化対策、③支部組織の活用強化対策の三テーマにしぼりあげられるという結論に到達した。

これに関連する各委員の主なる提案を要約する。

▽現行理事数は少なすぎる。二百五十人時代、五百人時代とは、いろいろ条件や機能を異にするけれども、共通的結論としては、同窓会員生在者総数約二万三千人の五%前後に当たる千人以上に理事を増員すべきである。

▽これと並行して財政強化策を講ずべきだ。

▽支部を現地任せにせず、年に一度くらいは本部で支部長会議を開催し、支部理事増強対策、財政強化策などについて、率直な意見の交換を行い、支部の活性化と活用を図る。

▽将来構想としては、財団法人に組織変えして、全会員からの会費徴収、事業体制の体質強化を図る。

▽名簿会社の所有に帰した同窓会名簿は版権を買い戻すか、それが不可能であれば、百十周年以降の名簿は校友会の財産であるとの基本認識に立ちかえり、コンピュータによるソフト技術によって、毎年記録保持すべきである。

などの意見が出された。

これらに基づいて、ダラダラ審議を避けるためにも、引き続き、三テーマを毎月一回例会を開催して精力的に検討を続け、三月末までに原案をまとめることとした。

夜間と休日は無人に

…母校、2月から…

同窓会連絡は桜谷さん宅へ

秋田高校は来年二月一日から機械警備に移行する。これにより夜間と日曜、祝祭日は校舎内は無人となる。

防犯、防火の立場から夜間と休日の校舎の管理を民間の警備会社に委託することになったもの。

これに伴なって、平日は夏季(四月～十一月)は午後七時、冬季間(十二月～三月)午後六時、土曜日は午後三時で校舎は全て閉鎖される。

従って、夜間(土曜日は午後三時以降)と休日の同窓会事務局への電話連絡は、直接事務担当者の桜谷さん宅(TEL㉓2541)へ。

慶祝(判明分)

◎**県農協中央会長賞**
小山田宣雄氏(S7)

◎**勲四等瑞宝章(教育功労)**
高橋　正志氏(S7)

◎**文部大臣表彰(教育功労)**
能登　文敏氏(S14)

◎**文部大臣表彰(産業教育功労)**
辻　兵吉氏(S19)

◎**勲四等瑞宝章(教育功労)**
髙橋　彌助氏(旧職員)

◎**文部大臣表彰(教育功労)**
秋山　光雄氏(校長)

哀悼(判明分)

黒沢　信夫(S9)秋田1月
中村　譲(T13)秋田4月
三浦　誠治(S9)秋田9月
柳原　雄二(S12)秋田7月
大久保房雄(S12)雄勝9月
佐藤　清伍(S5)秋田5月
柳谷清三郎(S3)能代3月
松野　朝造(S9)能代9月
九嶋　賢三(S10)鷹巣10月
菅原　淳三(S10)秋田10月
国司　忠也(S10)埼玉10月
近藤　真一(S10)秋田10月
佐々木秀一郎(S11)秋田11月
池見　元宏(S23)秋田11月
永井源一郎(S11)秋田11月
今井多嘉夫(S11)秋田11月
伊藤　敏雄(S11)秋田11月
吉田　正(S11)大曲11月
鈴木　金芳(S29)大曲11月
佐藤勇太郎(S7)仙台9月

昭和59年度男鹿支部総会

○とき　昭和59年12月1日
○ところ　男鹿駅前・ホテル諸井

好天に恵まれた初冬の夕闇が迫る頃、男鹿支部総会が開催された。

秋山秀麿幹事長(S21年卒)の開催のことばと司会により村上光彦支部長(S3年卒)の挨拶の後、秋山幹事長の予算・決算・事業経過報告等の説明があった。次いで、来賓の同窓会副会長京野大三氏(S12年卒)、事務局桜谷吾朗氏(S12年卒)、野球部監督大久保正樹氏(S42卒)から御挨拶があった。その後、役員改選に入り加藤義孝氏(S16年卒)などの新役員を選出し、今村久悦氏(S9年卒)の乾杯によって、懇親会に移った。(秋山秀麿記)

秋田県議会議員
山田靖男(S32卒)
自宅 秋田市広面字樋ノ口四四―五四
電話(〇一八八)㉞二九一八番

芝浦電気通信株式会社
代表取締役
児玉輝致(S32卒)
本社 秋田市牛島東七丁目八―十八
☎〇一八八―三三―〇〇〇〇
FAX 三三―〇六八四

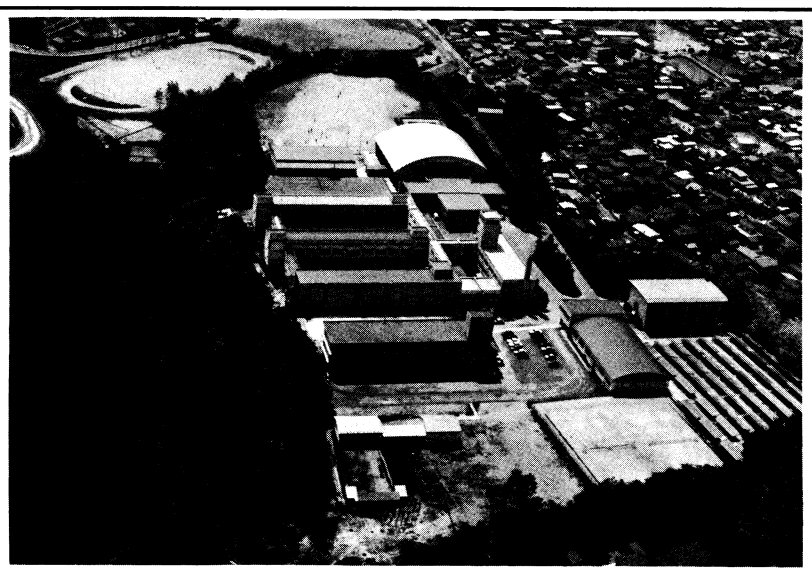
建築構造コンサルタント
所長
山脇健(S32卒)
秋田市中通三丁目三番十六号
電話 〇一八八㉞四三六八番
㉞〇六三七番

(株)越中谷写真商会
越中谷正美(S29卒)
秋田市土崎港中央6―5―7
TEL45―1573

武田眼科医院
武田浩芳(S29卒)
〒988 気仙沼市南郷5―1
TEL0226―23―2180

江川印刷所
江川忠夫(S29卒)
秋田市中通3―4―39
TEL32―3263

母校の全面改築決まる



母校の校舎がここ二、三年のうちにこれまで県内の学校にはないフリースタイル型の校舎に生まれ変わる。

60年度から着工

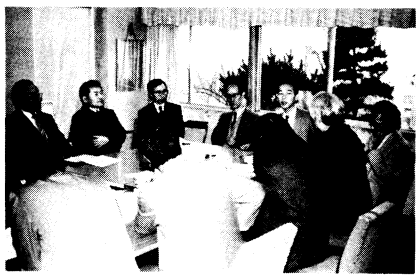
ニュータイプの校舎　設計は長倉教授に

県立秋田高校は建物が老朽化したため、去る五十五年から改築工事が進められ、これまで理科棟と北棟、体育館が完成、既に授業にも使用している。残った建物の工事について、学校当局と県教委と協議した結果、六十、六十一年度中に全く新しい構想のもとで全面的に建て直すことが認められた。

現在の校舎は廊下がなく、例えば、三階の教室の生徒が隣りの教室に移るにしても、一たん一階へ降りなければならない不便がある。そこで数年前、改築の話が出た際も授業に機動性をもたせるということで、学校当局や同窓会などが全面改築を要望していた。

しかし県教委では財源難などを理由に「一部修理」の形で工事が進められ、このため折角新しくなった校舎でさえも依然、不便さは解消されていない。

ところが今回決まったのは、まだ手がつけられていない管理棟、南棟、北棟中心に全く新しく建て直すというもの。しかも設計は、学校建築の第一人者、教立大学教授長倉康彦氏に依頼、これまで県内の学校では採用されていないフリースタイル型と決まり、既に同教授による現場の要望聴取も終わり、一月中には県教委に素案設計が提出され、三月末までには基本構想を完了する段取りである。



㊤は全面改築が決まった秋田高校の全景。㊦は長倉教授に現場からの意見を述べる先生たち。

香奠返しに50万円

内藤会長の遺族が母校に

去る九月二十七日死去した本校同窓会長、内藤庸男氏の遺族が母校に香奠返しの一部として五十万円を寄付した。

十二月一日午前、母校を訪れた故内藤会長の長男、撤氏から「父の意思により、後輩たちのために役立ててほしい」と差し出された金一封を受け取った秋山校長は、さすがに故人の強い母校愛に感激した表情。

「みんなと話し合い故会長の意思に報いるよう使途を考えたい」と話していた。

理数科に推薦制度

60年度から母校で実施

秋田高校では六十年度の入試から理数科に限り、一部推薦制度を実施する。

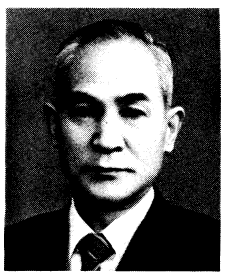
要項によると理数科（定員四十人）の三〇%を限度として、あらかじめ決められた規定に基づいた中学校校長の推薦で入学を認めるというもの。

県内では県立の実業高校では既に推薦制度が実施されているが、県立の普通高校ではこれが初めて。

来年二月一日には一般の入試に先立ち、推薦入学者が決定される見込みであり、高校入試戦線に新たな波紋を投げている。

秋山校長が全国表彰

教育功労者に　夫妻で陛下に拝謁



秋山光雄秋田高校長(六〇)（写真）が五十九年度教育功労者として全国表彰された。

同校長は昭和二十三年秋田鉱専卒業後教職につき、数学教科担当として戦後の高校教育の第一線で活躍。また校長としても男鹿高校、湯沢高校を回られたが、教育庁生活も長く、特に人事の面で敏腕をふるわれた。

さる五十五年、教育庁主幹から本校の校長に就任してからは、県高校長協会長として文字通り本県教育界のリーダーとなった。特に今年は県高体連会長として秋田インターハイを大成功に導いたことは周知の通り。こうした同校長の三十六年間にわたる教育界に尽した功績が認められ、晴れの受彰となった。

十一月二十七日国立劇場で行われた受彰式で松永文部大臣から表彰された秋山校長は夫人同伴で他の受彰者とともに皇居を訪問、陛下に拝謁を許された。

春秋の間で直接、陛下から長年の労をねぎらわれ、「今後も健康に留意してがんばるように…」と励ましの言葉を受けた同校長は感激した面持ちで「家内を連れて行く機会もなかったのでとても良い記念となった。こうした光栄に浴すことができたのも教職員や同窓会のみなさんが全面的にバックアップしてくれたおかげ」と語っていた。

千六百人を超える

◇……女子OB、30年間で……◇

来春卒業生は初の百人台に

今年は女子一期生が卒業してちょうど三十年…初めて卒業生を送り出した二十九年はわずか二十八人だったが、その後時代とともに増え、この三十年間に女子卒業生は千六百八十四人に達している。

女子同窓生の集まりである若菜会当番による年代別女子卒業生数は別表のとおりだが、一期生以来、二十人台から三十人台を前後していた女子卒業生は、四十一年に初めて四十人を突破、さらに四十五年は前年を一気に二十三人も上回り七十人に達している。

過去三十年間の最高は五十七年の九十三人で続いて五十二年の九十二人。五十五年以降は毎年八十人以上の卒業生を送り出している。

次に第一期卒業生の出身中学はほとんど秋田市内だったが、今春入学した百二人の女子生徒の内訳は、秋田市内が八十七人、男鹿・南秋が十一人、河辺二人、その他二人で出身中学も二十三校（その他を除く）に分かれている。ここにも時代の〝波〟がうかがわれる。

ちなみに在校の女子生徒は、三学年とも百人を超え、三十年前は共学は二クラスだったものが、今では四クラスでも容易でないと学校当局では言っている。いずれにしろ女子卒業生は六十年度から百人を突破しそうだ。

年次別女子卒業生数　（S29年～59年）

29年 28人	38年 38人	47年 66人	56年 80人
30年 31人	39年 36人	48年 58人	57年 93人
31年 26人	40年 39人	49年 77人	58年 86人
32年 23人	41年 41人	50年 78人	59年 88人
33年 25人	42年 29人	51年 72人	合計 1,684人
34年 22人	43年 38人	52年 92人	（調査番号による当に）
35年 34人	44年 47人	53年 80人	
36年 30人	45年 70人	54年 78人	
37年 33人	46年 58人	55年 88人	

高橋先生、おめでとう

教え子らが叙勲のお祝い

高橋彌助先生の勲四等瑞宝章叙勲祝賀会が、十一月二十五日弥高会館で行われた。

先生は、昭和三十一年四月から昭和三十九年三月まで秋田高校に在職され、その後、増田高校長・能代高校長を経て、現在は秋田経法大で教鞭をとっておられる。本校での八年間は、英語科教諭そして教頭として、教科指導・学校経営面に優れた手腕を発揮された。当日は、その当時の同僚や教え子が発起人となり、県内外の来賓に同窓生多数を交えての盛大な催しとなった。

今回の叙勲は、五十年にわたる教育者としての実績は勿論ながら、戦後は通訳として、あるいはその後文部省の教科書検定委員をつとめるなど、各方面に活躍されたご功労が総合され、高く評価されたものと思われる。

発起人を代表して桜谷吾朗氏は、先生を「古武士の風格」と評されたが、蓋し名言であり、今年七十五歳の高齢とは思えぬ毅然たる姿勢を、尚示しておられる。

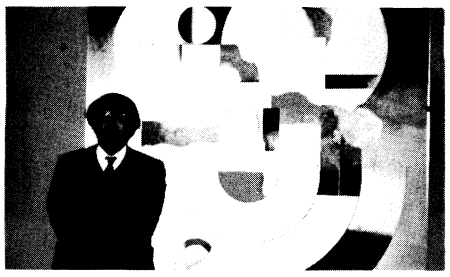
今後、益々ご壮健で、一層のご活躍のあらんことを祈念するものである。

▲元同僚や教え子たちで、にぎやかに行われたお祝いのパーティー

好評の佐々木氏（S29）

◇…将来はふるさと展を…◇

「みやぎの五人展」に出展



▶芸術選奨受賞の「不確定な要因を内在した情景I」の前に立つ佐々木健治氏

昭和二十九年卒の佐々木健治氏（四九）（仙台商高教諭）が九月一日から十月十四日まで仙台市の、宮城県美術館で開催された第二回「みやぎの5人展」に「Xの証明シリーズ」の連作など十九点を出展、独自の手法で網状の線を浮び上がらせる非具象作品は、厳しい造型思考を展開したものと好評を博し、地元河北新報紙上にも大きく紹介された。

同氏は、秋田市新屋出身、日新中（現秋田西中）時代から現代美術家協会会員の相沢謙一氏（秋田市住）に師事、本校在学中も絵画部員として抽象画に取り組むなど当時としては変わり種だった。東北大教育学部に進んで美術を専攻、以来一貫して非具象作品を追求し続けている。四十一年モダンアート協会会友に推され四十八年に会員となったが、この間、宮城県芸術祭賞、河北展で仙台市長賞、宮城選抜展で芸術選奨など受賞も数多く東北を代表する中堅作家として活躍中だ。

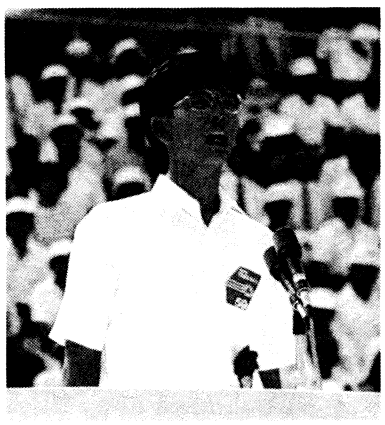
今回の5人展には、英国の造型作家デビット・ナッシュ氏もかけつけて「二十一世紀につながる作風」と激賞していた。またこの5人展に来仙した佐々木氏と同期生で絵仲間の秋山（旧姓丹内）まり子さんに佐々木氏は「近い将来ふるさと展を実現させたい」と約束した。

（I・K）

特集＝後輩只今活躍中＝

秋田インターハイ報告

「東北の緑に染まれ　君の青春」のテーマのもと、昭和五十九年度全国高校総合体育大会秋田大会がこの夏休み中に開かれた。全国高校の精鋭二万三千を集め、新装なった河辺郡雄和町の県営陸上競技場で行われた七月三十一日の総合開会式を皮切りに、八月二十日まで県内二十市町村において二十五種目（飛び込みは福島県）に覇を競った。本校も団体戦剣道・柔道・弓道・ボート・卓球・バドミントンの六種目（含個人）、個人戦一種目―レスリングと、約四十名の選手が出場。ボートの準優勝をはじめ剣道のベスト8、柔道・弓道・卓球のベスト16、個人でレスリングの渡辺拓哉の三位、バドミントンの魚谷啓法がベスト8に進出するなど、秋田県選手団の先頭に立って、赫赫たる戦績を収めた。また本校の生徒会が中心となって作った「推進委員会」（代表松橋幸樹生徒会長）では、この日にむけて、全県的に「一人一役」運動を展開。各種目の大会運営に、応援活動に連日の猛暑の中それぞれ青春の思い出を刻んだ。



◀松橋生徒会長　堂々のあいさつ

秋高インターハイで燃ゆ

今年度下半期の秋高の活躍の筆頭は、団体六種目（個人出場を含めて38名）、個人（レスリング、剣道女子）2名の選手団をおくった59インターハイ秋田大会だ。「開会宣言」をされた秋山光雄校長・地元生徒代表の松橋幸樹生徒会長以下、職員・生徒も「一人一役」ということで、「まごころ」「ふれあい」をうたったインターハイを盛り上げた。

秋高選手団は質においても全県の選手団の先頭にたって大健闘した。ボートの準優勝、剣道のベスト8、柔道・弓道・卓球のベスト16、更に個人ではレスリングの渡辺拓哉の三位、バドミントンの魚谷啓法のベスト8など万丈の気をはいた。総合開会式場の応援、駅前の案内所、本校の練習会場（バスケット・新体操など）における一人一役運動も見事で、大会の成功はこれら補助員の活動に負うところ大であった。

「汝、勉強せや！」

夏休みの約二十日間秋高のすべての職員・生徒は燃えたが、日常のやるべきことも例年どおり現実の問題として着実に処理した。九月八、九日の二日間、「汝、勉強せや！」のテーマのもとに、恒例の「秋高祭」を行った。二日目雨にたたられたけれども、人出は昨年以上で、マンネリ化が叫ばれているクラスデコでは、はじめて一年生のクラスが優勝して、新風を吹き込んだ。

修学旅行もいつもと同じ。10月27日から二年生が二クラスずつ五班編成で行い、奈良・京都―古都の秋の旅を楽しんだ。

この間、二年以下の新人戦も行われて、硬式野球部の東北大会出場、軟式野球部、弓道部の全県優勝（弓道は1月に東北大会へ出場）、卓球の中央支部優勝など、来年度の活躍が期待される。

校舎全面改築決まる

学校の教育環境にも新しい波が押し寄せ、三学期より本校でも無人化に伴う「機械警備」を導入することになった。また昨年校舎の全面改築を実現すべく役員補充を行って継続させた校舎改築期成同盟会は、再三の陳情を行い、この程その努力が実り、国の補助を受けて秋高の大改築が決まった。まだその全容が明らかでないが、東京都立大の長倉教授の設計になる新しいタイプの校舎になるとか。とにかく21世紀に「さきがけ」する天下の秋高にふさわしいものでありたい。

内藤同窓会長ご逝去

こうしているうちに本年度唯一の悲報に接した。同窓会長の内藤庸男先生の突然のご他界（9月27日・77歳）である。一年間の会長さんでしたが、ご冥福を祈る次第。合掌。

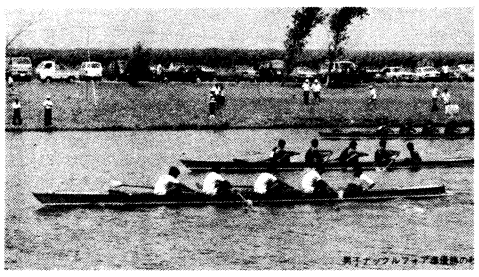
母校だより

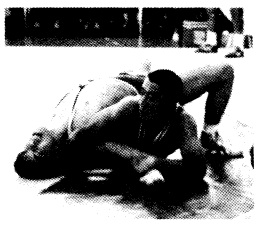
ボート部

輝ける全国準優勝

＝男子ナックルフォア＝

大潟村漕艇場で行われたボート競技、男子ナックルフォアで七年ぶりの出場ながら、気迫の準優勝を果たし、歴史に残る快挙をとげた。





レスリング

渡辺、気迫の三位入賞

＝75キロ級＝

練習場にも、練習相手にも恵まれず、黙々と孤独に耐えた渡辺拓哉は、見事、75キロ級で三位を獲得、一躍注目を浴びた。

〈記録〉

75キロ級準決勝

浅沼（青森）Tフォール　**渡辺**

剣道部

善戦！ベスト8に残る

高鍋（宮崎）に惜敗

名門秋田高の復活を目指し、連日の猛練習の下、全国の強豪を相手に善戦、予選を突破、決勝トーナメント準々決勝で、高鍋高（宮崎）に惜敗、涙をのんだ。

〈記録〉（男子団体）

〈予選リーグ〉

秋田　4―1　東海大第一（静岡）

〈決勝〉

秋田　4―1　須坂（長野）

一回戦

秋田　3―1　館山（千葉）

準々決勝

高鍋（宮崎）　3―2　**秋田**

柔道部

健闘・ベスト16

技術優秀校となる

〈記録〉

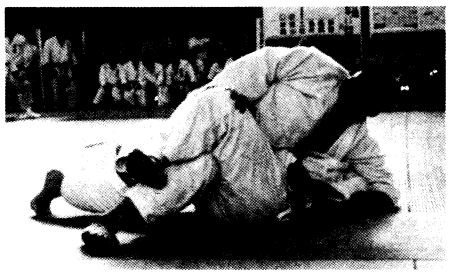
〈予選リーグ〉

秋田　4―0　高知商（高知）

秋田　2―1　大宮工（埼玉）

〈決勝一回戦〉

東海大二（熊本）　4―0　**秋田**



バドミントン

魚谷選手　堂々の八強入り

新人戦

硬野三年ぶり東北大会へ

軟野・弓道・卓球

軟庭個人等全県を制す

59インターハイ秋田大会で、県民の期待に応えるべく、大活躍した秋高の各部は、夏休み明けからはじまった新人戦ではどうか。まだ終了していない種目もあるが、中央地区では、硬野に続き弓道・水泳・卓球と優勝し、全県でも軟野が今年度全国ベスト4の能代を破って優勝すれば、弓道も全県総体に引き続き優勝して冬の東北大会行きの切符を手にし、卓球はまた宿敵秋田商業に連勝して破竹の勢いを示し、次元の高い文武両道の秋高を内外に印象づけた。

▽硬野春の選抜出場を逸す

○中央地区大会　**優勝**

決勝　秋田　9―0　秋田商

○全県大会　**準優勝**

準決勝　秋田3―2中央

決勝　経法大附3―0秋田

三年ぶり東北大会出場を果たして春の選抜出場を狙ったが、一回戦で敗退して夢と消えた。

○東北大会　会津3―1秋田

▽軟野＝宿敵能代を倒す

準決勝　秋田3―0能代

決　勝　秋田6―3本荘

57年全国初優勝、今年ベスト4の能代には何度となく苦杯をなめて来たが、遂に制して久々に優勝を飾った。

▽ラグビー

○中央地区大会　**準優勝**

秋田工　42―0　秋田

○全県大会

秋田工　19―0　秋田

（三位決定戦）

経法大附　14―0　秋田

▽サッカー

○中央地区大会

ブロック　**準優勝**

○全県大会　**準優勝**

準決勝秋田0―0経法大附

PK　3―2

決勝　秋田商　1―0　秋田

○全国大会予選　第三位

▽軟庭男子個人全県制覇

○全県大会　団体　第三位

準決勝　花輪　2―0　秋田

個　人　**優勝**

準決勝

高橋（秋田）　4―3　斎藤（能工）

三浦　米川

決勝

高橋（秋田）　4―2　竹村（大曲）

三浦

しばらく県北勢に押され、泣かず飛ばずだった軟式庭球も個人戦ながら全県を制して、伝統復活を思わせた。

▽陸上競技

○中央地区大会

大野慈明　二冠に輝く

一〇〇M　優勝　11秒2

二〇〇M　優勝　23秒0

加藤伸之　棒高跳び　優勝

▽剣道　中央地区・全県とも秋田南に敗れる。

○中央地区大会

準決勝　秋田南3―2秋田

○全県大会　**準優勝**

弓道部

健闘！男子団体

ベスト16入り

〈記録〉

〈予選（20射）〉

秋田　14中

〈決勝一回戦（20射）〉

秋田　11―8　瀬田工（滋賀）

〈決勝二回戦〉

鹿屋工（鹿児島）　15―12　**秋田**

卓球部

団体・ベスト16

個人・単複共に善戦す

〈記録〉

〈団体一回戦〉

秋田　3―1　津久見（大分）

〈団体二回戦〉

秋田　3―0　旭川実業（北海道）

〈団体三回戦〉

北越（新潟）　3―1　**秋田**

決勝　秋田南5―0秋田

▽水泳

○全県大会　男子総合第三位

女子総合第六位

個人男子

自由型一〇〇M　**優勝　清水**

自由型二〇〇M　**優勝　青木**

八〇〇Mリレー　準優勝

四〇〇Mメドレーリレ準優勝

個人女子

自由型八〇〇M　**優勝　楢岡**

▽柔道　宿敵経法大附に雪辱ならず

○中央地区大会　団体準優勝

経法大附（2人残し）秋田

個人軽重級　**優勝　鳥井**

○全県大会　団体準優勝

▽卓球　中央地区三冠、全県二冠達成す

○中央地区大会　**優勝**

団体準決勝秋田3―0由利工

決勝　秋田3―1秋田商

個人シングルス　**猿田　優勝**

ダブルス　**斎藤・船木　優勝**

○全県大会

団体　秋田3勝0敗　**優勝**

個人シングルス　**斎藤　優勝**

▽弓道　中央地区・全県とも制して、全県総体・県民体育大会と四連勝中

○中央地区大会

男子団体　秋田40射22中**優勝**

個人　**小泉**8射8中**優勝**

○全県大会

男子団体（3人立）　秋田**優勝**

個人　**進藤**8／7　**準優勝**

この結果弓道部は1月20日福島で行われる東北大会に出場、3月の全国大会（明治神宮・ブロック代表二チームによる）に照準を合わせて目下猛練習中。

事務局報

昭和五十九年九月以降の会務を報告いたします。

9・22　秋田営林局支部総会

9・22　若菜会総会

9・26　百十周年記念事業実行委員会並びに反省会

9・27　内藤庸男会長ご逝去

10・13　仙台支部総会

10・13　能代・山本支部総会

10・30　だより編集委員会

11・5　第一回組織検討委員会

11・19　第二回組織検討委員会

11・22　本荘支部総会

12・1　男鹿支部総会

12・14　第三回組織検討委員会

へんしゅう室

○…まず第一に驚かされたのは、内藤会長のご逝去。悲報を聞かされたときは、自分の耳を疑ったほど。今となっては心からご冥福を祈るばかり。それと同時に会長のご意思が後輩達に立派に生かされることを願う。

○…会員の名詞広告を募集しています。料金は一コマ（一段×四㌢）に付き一万円。希望者は料金、原稿添えて母校内の事務局へ。電話（㉜7200）でも受付けます。